

富谷小だより

渋谷区立

富谷小

学校通信

準備の0学期-子供主体の学校づくりに向けて-

副校長 武内 伸輔

1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」と言いますが、早いもので今年も、もう2月になります。教員の週の振り返りの文を見ていると「〇学年の0(ゼロ)学期として1月から3月を考え、子供たちが次の学年でよいスタートができるようにしていく。」という言葉が出てきます。学校全体で今年度の振り返りと来年度に向けて様々な取り組みを行っています。

1月14日(水)には、5年生全員と教員、お集まりくださった保護者、地域の皆様とで「子供×大人の熟議」を開催しました。3~4人の子供と2~3人の大人が一つのグループになり、「富谷小学校のわくわくするところ・もやもやするところ」「より楽しい学校にするためにできること」について話し合いました。

その中で、ある子供が「スポーツフェスティバルで短距離走を復活させてほしい」と意見を述べました。それに対し別の子供が「団体競技でみんなと協力するのが楽しい。自分は団体競技をやりたい」と考えを話しました。すると最初の子供は、「みんな短距離走をやりたいと思っていたけれど、いろいろな考えがあることが分かった」と感想を述べたそうです。

「熟議」を行って、教員が思っていた以上に児童は「富谷小学校がどうすればもっと楽しい学校になるか」を考え「実際にいろいろやってみよう」と感じていることが分かりました。子供たちの力の充実を感じ、我々教員の視野が広がりました。

同じ1月14日(水)の朝には委員長会議か

らの全校児童に向けて、「みんなで学校を楽しくしよう大作戦!」の実施が呼びかけられました。それを受けて、各学級で係活動など、みんなが「わくわく」する活動を話し合い、実行に移しているところです。

今年度掲げた「子供主体の学校」とは、すべてを子供に任せるという意味ではなく、学校という「社会」づくりに当事者である子供たちが主体的に関わることで、学校生活がより楽しくなったという実感がもてたり、「社会」に主体的に働きかけることで変化を起こせるという意識がもてたりするように育てることです。今回の熟議や大作戦を通し、この「子供主体の学校」がさらに一歩進んだように感じています。この経験を生かして、子供も大人も来年度の新たな目標や活動を考えていきたいと思います。

本校でもインフルエンザによる欠席が増えています。感染症からも「逃げ」切り、今年度のゴールに向けて元気に過ごせるよう、引き続きご家庭での健康管理にご協力をお願いします。



熟議の様子:大人も子供も真剣でした。